

平成 28 年度第 2 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 28 年 12 月 15 日 (木) 9:30~11:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| ・高橋 英史委員 (市小学校長会) <副会長> | ・沼尾 順市委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会) |
| ・黒川 浩委員 (市中学校長会) | ・金田 俊男委員 (県林業センター) |
| ・田辺 陽子委員 (市PTA連合会) | ・坂内 剛至委員 (ネイチャーブラネット) |
| ・五十嵐市郎委員 (市子ども会連合会) | ・橋本 恵子委員 (公募) |
| ・黒後 洋委員 (宇都宮大学) <会長> | ・寺島 玄委員 (公募) |
- (事務局) 狐塚 章一所長, 山口 博副所長, 須田 浩太郎指導主事, 小林 真理指導主事

○欠席者氏名

- 櫻井 政義委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会)
北條 成男委員 (市レクリエーション協会)
古口 倭子委員 (県キャンプ協会)

○公開 (傍聴者の数 0 人)

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 題

(1) 報告事項

① 平成 28 年度事業経過報告について (ア学校受入事業, イ主催事業, ウ一般受け入れ事業)

事務局 : (資料にそって説明)

高橋委員 : 怪我のことについて教えてほしい。重篤な怪我也あったようだが、例年、統計的にこのような怪我がおきているのか。大きな怪我は中学生にかたよっているようだが、何か理由があったら教えてほしい。

事務局 : 今年度、11 月までの保健室利用者が 581 名である。昨年度の、4 月から 11 月までの利用者が、421 名だったので、今年度の保健室利用者は増えている。特に増えているのが、「捻挫」である。看護職員が「捻挫」と判断したものは、昨年度は 35 名、今年度は 88 名である。主に登山、ロッジの階段、園内での歩行で捻挫してしまっただけが多い。現在大きな怪我は中学生のみだが、中学校の受け入れが終わり、これから小学校が多く参加する。現在まで小学生の大きな怪我はおきていない。昨年度は、引率の教員が登山中に足を捻挫、カヌーで手をついて手首を骨折してしまうなどの例があった。今年度は、教員の大きな怪我は今のところはない。

黒川委員 : この資料は 4 月から 11 月のものだが、季節的な違いで怪我が多かったり少なかったりといったことはないのか。

事務局 : データとしては確認できる。季節による怪我の差異はあると思われる。例えば、7・8 月は虫刺されが多く、1・2 月は少ない等である。

寺島委員 : 登山中は大きな怪我が考えられるが、過去のデータから怪我が起きる危険箇所というのは集中しているのか。登山の場所で危ないところなど検証はされているのか。

事務局 : 登山だと、岩場やロープを使う部分などが怪我をしやすい場所である。また、落石もあるため、職員が注意喚起を行ったり、発生しやすい場所に表示をしたりしている。平らなこちらの予想しない場所で転んでしまう例もあり、場所が集中しているとはいえない。登山で危険な箇所では、職員がついて声かけや補助を行うなどの支援をしているが、どうしても足を捻挫してしまう怪我はおきている。

会長 : 月別のものが、次回の協議会で提示できるとよいのでは。

会長 : 88 名のうち捻挫と判明したものが 35 名なのか。

事務局 : 35 名は昨年度の数である。「足が痛い」と保健室に来室し、看護職員が「捻挫」と見立てた人数が 88 名である。

会長 : なぜ、こんなに数に違いがあるのか。要因は何か。例年この程度変動するものなのか。

事務局 : 看護の職員によると、今年度は多いようである。

会長 : 虫刺されなどちょっとしたものでも対応しており、蚊に刺されても、ハチに刺されても処置している数としていると、あくまで保健室の利用状況なので、実際の怪我などの数と違いがあるのかもしれない。

黒川委員 : 季節的な変化が分かれば要因も見えてくるのでは。

- 会長 : 雨が多かったので滑って捻ったということは考えられるが、特に今年雨が多かつたようには感じなかった。他に何か意見はあるか。
- 五十嵐委員 : センターでは野外炊飯やキャンプファイヤーなど火を扱う活動を重点的に取り組んできたと思うが、キャンプファイヤーの実施は、学校利用では増えているのか。
- 事務局 : 夜の活動として、キャンプファイヤーやキャンドルファイヤーを実施している。今年度の小学校では、キャンプファイヤーを実施している学校は多くはない。中学校でも雨天を心配してキャンドルファイヤーを計画する学校が多い。夜の活動としてナイトハイクを実施する学校もあり、夜の活動をしている学校は例年通りである。
- 五十嵐委員 : 今後、夜の活動や火を扱う活動をセンターとして推奨していくのか、それともあまり推奨はせず今のまま現状維持でよいのか。
- 事務局 : 今後も夜の活動や火を扱う活動を推奨していくが、季節的にインフルエンザや感染性胃腸炎などから子どもの体調を考え実施できない場合もある。学校と相談しながら今後も進めていきたい。
- 会長 : リーダーバンクについてご意見はあるか。リーダーバンクを通して市または県からこちらに紹介があつて実施しているのか。
- 事務局 : 一般の団体からイニシアティブゲームやネイチャーゲームを実施したいと要望があつた場合に、こちらで指導者を紹介している。
- 会長 : 外部の者なのか。
- 事務局 : ボランティアの指導者である。
- 会長 : 指導者は、ここを仲介するリーダーバンクに登録してある人であつて、この職員は入っていないのか。
- 事務局 : 実際はほとんどセンターの職員である。職員全員が指導する資格をもっているのので、リーダーバンクに登録しており、要望があれば指導している。人が集まらない現状があるのでこの後、協議事項としてご意見をいただきたい。
- 会長 : その他何かあるか。
- 橋本委員 : 公園内の安全管理について、スズメバチやイノシシ、アライグマ、ハクビシンなど各地で出没を聞くが、被害などあれば教えてほしい。
- 事務局 : 昨年度は、登山中に中学生や教員がスズメバチに刺される被害があつた。また、指導者研修会に参加した先生が登山中に刺されたこともあつた。今年度は登山中のスズメバチの被害はない。ただ、園内東側で小学生が活動中、クロスズメバチという小さなスズメバチに刺された。キイロスズメバチやオオスズメバチによる被害はない。情報があると、職員が駆除したり、園内の木の蜜が出る部分を覆ったりなどの対応をしている。イノシシについては、見た職員はいないが、例年同様、土が掘り起こされている様子がある。報告のあつた際には、学校にその旨伝え、注意喚起を行っている。
- 沼尾委員 : イノシシは今年 150 頭殺処分しているので、間違いなく減っている。ただ、山に近い境界に住んでいる人々からの報告は多く、年々人と獣の境目が難しくなっている。今年度はクマの報告もあつた。猟友会の方に確認し、地区センターや小学校、冒険センターにも報告をしてきた。地域の農家の被害は増えている。山は続いているので、現在被害がなくても今後出る可能性は大きい。市の対応もまだ不足している。対応が難しい部分もあるので、情報をしっかり伝え合うことが大切ではないか。
- 会長 : 情報を共有していくことが大切である。

(2) 協議事項

① 平成 29 年度事業計画について (ア 学校受入事業, イ 主催事業, ウ一般受入事業)

- 事務局 : (資料にそつて説明)
- 金田委員 : 教育効果の測定について、新尺度により測定を行うとの話があつたが、「児童生徒対象アンケート」とは、28 年度の 95% 満足といった結果を使うのか。それとも 29 年度に新たに実施して結果を出すのか。
- 事務局 : 満足度 95% とは、28 年度の一般利用のアンケート結果である。教育効果の調査研究は、昨年度まで 5 年間、冒険活動教室に参加した小中学生を対象に「生きる力」について実施してきた。冒険活動教室での活動が子どもたちの生きる力に役立っているという結果が得られ、学校に結果を送付したり、校長会等で公表させていただいたりした。そこで今年度から「冒険活動教室が児童生徒の道徳性にもたらす効果」という研究主題で調査研究を進めることにした。「生きる力」の測定の際にもご協力いただいた東洋大学の平野先生と淑徳大学の永井先生、また市教委と連携して、調査の準備をしているところである。現在、小学校 5 年生と中学校 1 年生にどのような質問をするか因子の検討を行っており、年度内にこれから冒険活動教室を実施する学校に対して、アンケートを行う予

- 定である。また、来年度からは全校を対象に本格的な実施を考えている。
- 会長 : ぜひ詳細なデータが得られると思うので、宇都宮市全体に広報していけるとよい。意外と知らない人が多く、市の会議等で聞かれることもあった。その他あるか。
- 坂内委員 : リーダーバンクについて指導者があまり集まらないという話があった。平成 16 年から事業が始まったが、今まで講習会に出て資格がある方に、指導に興味があるか確認するようなヒアリングを行うとよいのではないか。また、興味があるという人に対してフォローアップの研修をセンターで年に 1 回ぐらい実施すると、リーダーの指導のレベルが保たれて、お願いする方の不安も減るのでは。
- 会長 : 実際、他の機関のリーダーバンクはあまり機能していない。登録されている人の高齢化が進み、問い合わせでも責任者がはっきりしない部分もある。冒険活動センターが独自で行った方がよい。費用も高く設定したからといって集まるのか難しいところである。
- 寺島委員 : 登録している方は、どんな方か。
- 事務局 : 自然体験指導者研修を受け、資格をもっている方である。リーダーバンクに登録している方には声をかけさせていただくこともあるが、みなさん本来の仕事があり難しい。また研修を受けて時間がたっている方になかなかお願いしにくい状況もある。
- 会長 : 前年度の実績を踏まえデータアップしてもらい必要がある。資格はあるのは分かるが、年齢も尋ねないと教えてもらえない状況である。
- 会長 : 小学校、中学校からの要望などはないのか。
- 事務局 : 冒険活動教室の期日について全校に意向調査を実施している。その際に行事等を理由に変更の希望があり、対外的な理由による場合には期日を調整している。
- 会長 : 実施日は抽選ではないのか。
- 事務局 : 全校を A B の 2 つに分け、1 年ごとに交換している。さらに A B 内で 4 つのブロックに分けてローテーションを行っている。ただ、中学校はテント泊を伴うので、実施時期が限られている。
- 会長 : テント泊はいつごろまでか。
- 事務局 : 11 月中旬までである。
- 会長 : 小学校の 1・2 月の実施も日程を考えるとやむを得ないのか。
- 事務局 : 全小中学校の実施を行う上で避けられない。3 月は卒業式を配慮し、第 1 週でおさまるようにしている。
- 会長 : 次年度の新規事業はないのか。
- 事務局 : ない。今年度の新規事業については、実施をもとに内容を検討し、次年度も同じ形で実施していく予定である。
- 五十嵐委員 : 南図書館でのパネル展やフィスティブアルでの広報活動を実施しているが、宇都宮市の事業で「もったいないフェア」など様々なイベントがあるので、冒険活動センターの職員が出向いて参加するのも 1 つの方法である。先日のイベントも城址公園にかなりの人が集まっているので、そこで体験してもらおうと来所するきっかけになるのでは。
- 会長 : 広報という観点からいかがか。
- 事務局 : 南図書館との共催で、職員がクラフト体験を行っている。他の機関から、要望があれば検討している。また「食育フェア」の際に冒険活動センターのパネルを展示している。職員が出向いて体験活動を行うとなると、職員の調整等難しい部分がある。センターは月曜日が休館であるが、月曜日から冒険活動教室を実施する場合や、金・土・日と実施している場合もあり、職員が出向く余裕がないのが現状である。行事を精選して要請があった際には可能か検討の上実施している。
- 五十嵐委員 : 要請はなかなかないのでは。こちらから出向いて利用促進であるとか、リーダーバンクの周知などしていくことが 1 つの方法ではないか。市のイベントであれば、センターが参加しても問題はないのではないか。
- 沼尾委員 : 力を入れたいが、人の問題、予算の問題ではないか。人材の確保がないと勤務の調整は難しく、実施できないのでは。予算の確保が必要である。

4 その他

- 事務局 : 第 2 駐車場付近の鉛の件について報告をさせていただく。第 1 回運営協議会で安全性について報告申し上げた。その後の経過についてだが、11 月までに土壌調査を何回かに分けて行った。その調査結果に基づいて今年度中に実施設計を行い、来年度、対策工事を行っていく予定である。なお、利用者の活動場所については、基準値以下であり、影響もないことから、支障なく活動を行っている。今後も安全・安心の確保に努め、委員の皆様にご報告していく。

5 閉 会